

第94回「箱根駅伝」 林 奎介選手（青山学院大学）へ 最優秀選手賞「金栗四三杯」を授与

毎年1月2日～3日に行われている東京箱根間往復大学駅伝競走（通称：箱根駅伝）は、本町出身で「日本マラソンの父」と称される故・金栗四三氏が創設された大会です。

町では、金栗氏の名前を箱根駅伝の歴史に刻むとともに、町のPRのため、第80回大会から最優秀選手賞「金栗四三杯」を贈呈しています。

今大会の最優秀選手賞は青山学院大学3年の林 奎介選手が受賞。林選手は7区で区間新記録の快走を見せ、同大学の総合4連覇に大きく貢献しました。

林選手は「受賞を誇りにこれからもがんばりたい」と喜んでいました。



受賞に笑顔の林選手(右)

菊水南小学校放課後子供教室が文部科学大臣表彰を受賞

12月7日（木）、文部科学省で平成29年度地域学校協働活動の表彰式が行われ、菊水南小学校放課後子供教室が表彰されました。この表彰は、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働する内容が他の模範と認められる活動に対し行われるものです。

表彰式に出席したコーディネーターの石原さんは、「思いがけない受賞で驚きました。今まで当たり前のように活動が続けていたが、活動が認められてうれしい。今後も続けられるように後継者の育成にも力を入れていきます」と話されました。



受賞する菊水南小学校コーディネーターの石原幸子さん

平成30年和水町消防出初式

1月7日（日）、旧神尾小学校運動場及び三加和温泉センター駐車場で開催された。

小木雅司団長率いる消防団員が分列行進、通常点検、玉落とし放水競技を行いました。また、幼年消防隊のあおば保育園と春富保育園の園児による演技や防火の誓いを宣言しました。

なお、式典では年間優秀分団、団長表彰や防火水槽設置土地提供者の表彰などを行いました。

防火水槽設置土地提供者
田中 正邦 様（用木）
山下 博文 様（上十町）



迫力ある一斉放水

大豆を通じた学習 ～菊水西小学校できな粉づくり体験～

町内の小学校では、(株)丸美屋にご協力いただき、大豆を植え、育て、加工する学習を行っています。

12月8日(金)、菊水西小学校では、自分たちで育てた大豆を煎り、すり鉢や石うすを使ってきな粉づくりに挑戦。慣れない昔の道具に悪戦苦闘しながらも、石うすからきな粉が出てきた時は大歓声が上がっていました。

年間を通して指導した、(株)丸美屋の福永哲也さんは「子供達が大豆のようにすくすく育ち、地域を担う人材になって欲しい」と思いを語ってくれました。

児童は普段の学校生活ではなかなか学ぶことのできない貴重な体験ができました。



石うすできな粉づくりに励む児童たち

無病息災を願いモグラ打ち

小正月（1月14日前後）の恒例行事として、各地区でモグラ打ちやどんどやが行われました。

立石区では、1月14日に区内の小学生23人が55軒をまわりモグラ打ち。無病息災や家内安全をお願いしながら庭先を叩きました。

この日使ったモグラ打ち棒は、立石区老人クラブ会員が中心となり、みんなで作ったとのこと。池田区長は「伝統行事は区のつながりのためにも続けていきたい」と話されました。



寒いなか一生懸命がんばりました

日本マラソンの父「金栗四三」先生を目指せ！ 「第17回金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会」

12月9日（土）、「金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会」が、和水町体育館周辺コースにて開催されました。

この大会は町陸上競技協会が主催し、町内の小学校から9チームが出場。全6区間、約6.5kmを小学3年生から6年生の子どもたちが、保護者や地域の人たちの温かい声援を受けながら、友情のタスキをつなぎ健脚を競いました。



優勝を目指して、一斉にスタート！